

## ◇ 再発防止に向けた「ヒヤリ」・「ハット」の事例

### 1. 農場部門

#### 【事例－1】

乗用型草刈機（草刈機「まさお」）での草刈作業終了後にセンター内の舗装道路を運転中、機体から何か落ちたのが見えたので、機体を停止し周辺を見回したところ、左前輪のボルトが1本脱落していた。作業はすでに終了していたため、その場でボルトを取付け、整備棟まで運転して行った。

#### ◆「考えられる原因」

作業終了後雑草が機械に付着していたために、ボルトの緩みに気がつかなかったこと。

#### \*「対策、または正しい行動」

作業終了後には、機械に付着した雑草は、作業場所で除去を行っておく。

#### 【事例－2】

雑草の繁茂している斜面を、ハンマーナイフモアを使用して草刈作業を行っていたところ、斜面がきつくなり、横転しそうになった。抑えようとしたが、ついに横転した。（横転の際、ハンマーナイフモアから手を離れたことで、作業者には外傷、捻挫も無かった。）

#### ◆「考えられる原因」

雑草の繁茂した斜面の除草であったため、急斜面の場所に気づくのが遅れたこと。

#### \*「対策、または正しい行動」

斜面の除草を行う前に、どの程度の斜面であるか事前に確認を行ってから作業を開始する。

#### 【事例－3】

乗用型トラクタにて通常の点検を行い暖気運転中に格納庫の扉を開けようとトラクタから離れようとした、その時シフトレバーがバックの位置になっていたため後進しようとしてトラクタの動きが確認されたので運転者はすぐ停車させた。クラッチ操作も穏やかであり、エンジン回転も低くまた後部に格納されている機械との間隔もあり事故には至らなかった。

#### ◆「考えられる原因」

前回使用者が機械格納時にはシフトレバーを中立にし、停車する等の安全マニュアルに記載されていることを怠ったこと。運転者も機械から離れるときのシフトレバーの中立の確認を行わなかったこと。

#### \*「対策、または正しい行動」

安全マニュアルの再確認や職員へ今回の事例報告を行い、注意を呼びかける。

#### 【事例－4】

乗用トラクタで圃場へ移動しようと乗車した時、左右ブレーキの連結が解除されてい

たため連結し移動した。走行前に左右連結し移動したので事故には至らなかった。

◆「考えられる原因」

前回使用者が圃場作業以外でのブレーキは連結し移動する等の、安全マニュアルに記載されていることを怠ったこと。

\*「対策、または正しい行動」

安全マニュアルの再確認や職員へ今回の事例報告を行い、注意を呼びかける。

**【事例－5】**

食品粉砕器で、収穫用コンテナに一時保管されている不要収穫物の粉砕を行うために、運搬車によりコンテナとともに粉砕場所に搬入し、コンテナ内の不要収穫物を食品粉砕器投入口より投入するためにコンテナを持ち上げ移動させる際にバランスを崩し前方へ倒れこんだ。前方にはコンテナがあり大事には至らなかった。

◆「考えられる原因」

コンテナ内の内容物量が一定ではなく、重いものがありバランスを崩したため。

\*「対策、または正しい行動」

コンテナから粉砕器へ投入する場合は、重量を軽くし粉砕器に投入する。

2. 演習林部門

**【事例－1】**

チェーンソーの停止スイッチを押した後、刃の回転が終わる前に足元におろしたため、ズボンを切った。

◆「考えられる原因」

作業が終わり、チェーンソーの停止スイッチを押した時点で安心してしまったこと。停止スイッチを押した後も刃はしばらく回転していることを軽視、またはよく認識していなかったこと。(ズボンが体の保護の役割を果たした)。

\*「対策、または正しい行動」

スイッチを停止した後、刃の回転が止るまでを終了作業として習慣付ける。さらに安全防護具を着用することで、より以上の安全を確保する。

**【事例－2】**

車輛を運転作業中、運行経路を想定して路肩ギリギリに車両を止めたため、車輛を林道から落としそうになった。

◆「考えられる原因」

作業上、運行経路の幅を保持することは必要であったが、停車などの際には近くに誘導員を配置させることを怠ったこと。

\*「対策、または正しい行動」

転落の恐れがある場所では、誘導員を配置して安全に誘導させる。

**【事例－3】**

枝打ち機を使用後に停止させたが、エンジンがまだ熱いうちに機械庫内に格納して、そ

の場を離れた。別の職員がエンジン部分の近くに置いてあった肥料袋が枝打ち機に触れて溶けているのを発見した。直ちに、肥料袋と枝打ち機を引き離したため、大事には至らなかった。

◆「考えられる原因」

- (1) 機械庫内が整理されておらず、機械類の格納場所に使い残しの肥料袋を一緒に置いていたこと、及びその隣に不用意に枝打ち機を接触して置いたこと。
- (2) 枝打ち機の使用後、エンジンがまだ熱いうちに格納したこと。

\*「対策、または正しい行動」

格納場所を整理・整頓する。特に原動機付の機械類は、可燃物とは離れた場所に格納する。

機械類の使用終了後は、安全な場所でエンジンが冷めるまで待ってから格納する。

【事例－４】

刈払機にて草刈中、切り株にあたってキックバックを起こした。

◆「考えられる原因」

草が伸びていて切り株が見えないまま作業をしていたこと。刈払機の刃のキックバックを起こしやすい部分を木に当ててしまったこと。

\*「対策、または正しい行動」

草が伸びているときは、一度草丈の高い位置で草を刈り、根元付近を見やすくしてから草を刈る。また、あらかじめ切り株の位置が確認できた場合は、目印を立てておく。

【事例－５】

学生の間伐演習時に、伐倒木が倒れる寸前まで、周囲にいた実習生が即座に退避しなかった。

◆「考えられる原因」

安全確認が徹底されていなかったこと。

また、実習生自身に、間伐を行うときは、場合によっては伐倒木の下敷きになるなどの事故に繋がるという認識が不足していたこと。

\*「対策、または正しい行動」

伐倒作業では、事前に安全確保の作業確認を徹底する。また、現場でも、伐倒時には伐倒木の周囲にいる者は即座に退避すること、教員や技術職員の指示には必ず従うことなどの指導を改めて徹底させる。

【事例－６】

間伐の演習時に、ナタをケースから取り出そうとした実習生が、ナタで切り傷を負った。  
(軽度の切り傷)

◆「考えられる原因」

ナタをとり出す際の確認が不足していたこと。

\*「対策、または正しい行動」

刃物を取り扱う際には、手元などを確認する。現場で改めて刃物の取扱いについての注意行なう。

### 【事例－7】

間伐の演習時に、掛木処理のためチルホール（操作用ハンドル）で掛木に掛けて牽引していたとき、チルホールの操作棒を離したと同時に、操作棒が近くの学生の腕に当たった。（軽度の打撲）

#### ◆「考えられる原因」

ワイヤーがねじれたためにチルホールに横回転が生じたこと。

#### \*「対策、または正しい行動」

チルホールの操作時には、操作者以外の者を近づけない。

### 【事例－8】

他大学の実習が本学演習林で行われた時に、実験棟の近くに営巣していたスズメバチに教員が刺された。（患部が腫れる程度の軽症）

#### ◆「考えられる原因」

スズメバチの発見が遅れたこと。

#### \*「対策、または正しい行動」

スズメバチの巣がありそうなところには、近づかない。周囲の様子を事前に確認し、スズメバチの巣を発見した場合は、直ちに除去する。

### 【事例－9】

地質学の野外実験のため、演習林事務所にはほど近い林道で、地図作製の実習中の男子学生 1 名に落石が当たった。落石は、ヘルメットの縁に当たり、肩をかすめて林道の上に落下した。（学生は、応急処置後、診療所の診察を受診。特にその後の治療を要しない軽傷）

#### ◆「考えられる原因」

もともと演習林の所在する地域は、岩盤がもろく、落石が起きやすいところであること。この実習は、岩盤が露出している林道沿いで行っており、また、岩石や地層の観察、地図の作製等を行う実習には、落石の危険のある場所を対象としていることが多いこと。

#### \*「対策、または正しい行動」

当演習林では、地質の特性、急峻な山地であることなどの理由から、今回のような事故が起こる可能性があるため、事故の発生そのものを完全に防止することは難しく、もし事故が発生した場合において、その損害を最小限に抑え、つねに適切に対処できる体制が大切となっている。